

学校だより みやまき

京田辺市立三山木小学校

令和 5年 2月 3日 (金)

臨時号



令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等と水準向上を目的とし、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目指して、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されています。本年度は4月19日に調査が行われました。

2 教科に関する調査の結果について

調査では、国語、算数、及び理科の3教科について、小学校第5学年までの内容が出題されました。

(1) 国語科の分析結果と課題について

国語科の正答率は、全国平均・京都府平均を上回りました。特に、「書くこと」においては、正答率が高いことが分かりました。しかし、全国平均は上回っているものの「話すこと・聞くこと」においては、課題が見られました。漢字を文の中で正しく使うことや話し言葉と書き言葉の違いを理解することはできていますが、互いの立場や意図を明確にしながらか计划的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題があると考えられます。「話し合う力」を日々の学習で高めていきたいと思っています。

(2) 算数科の分析結果と課題について

算数科の正答率も全国平均・京都府平均を上回りました。特に、「数と計算」、「データの活用」においては、正答率が高いことが分かりました。しかし、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することや比例の関係を用いて、未知の数量の求め方と答えを記述すること等について課題が見られました。今後、生活経験を基に考えることや自分で導き出した結論が本当に正しいか振り返るよう指導してまいります。

(3) 理科の分析結果と課題について

理科の正答率も全国平均・京都府平均を上回りました。提示された情報を分析して、解釈し、事象に対しての考え方についての理解が高いことが分かりました。しかし、器具等の名称を答えることと様々な結果や情報からまとめを考える力については課題が見られました。今後、器具の使用を体験する機会を積極的に設けることや具体的な数値を用いて結果をまとめる機会を設けるために自分の考えを書く時間を確保する等、工夫してまいります。

(4) 質問紙調査の概要

質問の内容は、「生活習慣について」「学習習慣について」「学習の関心について」「ICTを活用した学習状況について」など、69の項目がありました。

生活に関しては、「毎日朝食を食べる」「起床時刻が決まっている」については、全国平均・京都府平均を上回る結果となりました。しかし、「就寝時刻が決まっている」は全国平均・京都府平均を下回る結果となりました。引き続き「すこやかミヤマキッズ週間」の取組等での各家庭のご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。

学習に関しては、「学習は大切」だと分かっているものの「好き」と答えた児童が少ないことが分かりました。学んだことが日常生活で生かされるという必要感を高めることで、更なる学習意欲へとつながるよう普段の学習を進めていきたいと思っています。

ICT機器の使用に関しての質問については、「勉強に役立つ」と回答した児童が多く、日々の学習で使用できていることが分かりました。今後もICT機器の効果的な活用を目指してまいります。




依然としてコロナ禍ではありますが、対策をしながら教育目標である「豊かに未来を創造できる子」を目指し、日々の教育活動を進めていきたいと思っています。

3 おわりに

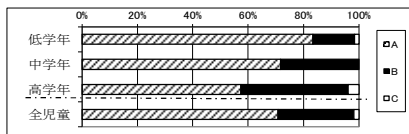
本調査は、幅広く児童の学力や学習状況を把握することを目的として実施しました。結果は、児童が身につけるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことをご理解ください。

本報告が学校と各家庭との、よりきめ細やかな協力体制を築きあげていく一助となることを願っています。

学校アンケート結果報告 (R4年度)

A:はい  B:どちらでもない、時々、少し  C:いいえ 

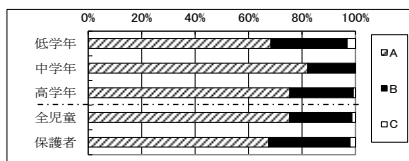
	A	B	C
低学年	83.3	15.1	1.6
中学年	71.7	28.3	0.0
高学年	57.4	38.6	4.0
全児童	70.8	27.3	1.8



今年も全児童のA回答のポイントが、昨年より約1.4ポイント高くなった。また、Cのいいえの回答が2.5ポイント下がっているものの、昨年と横ばいの状況といえる。ICTを活用した学習が多くなり、学習が楽しいと回答しているように思う。

② 学習したことはよく理解できていますか

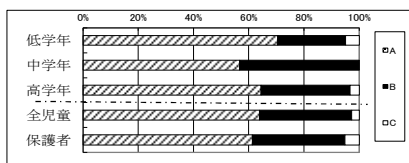
	A	B	C
低学年	68.4	28.5	3.1
中学年	82.2	17.8	0.0
高学年	75.4	23.7	0.9
全児童	75.3	23.3	1.3
保護者	67.6	30.4	2.0



今年は、昨年より全児童のA回答が約5ポイント上回る結果となった。特に中・高学年で約8ポイント上回ったが、低学年だけが3ポイント下がっているのが気になる。低学年の保護者からの意見としては授業中に話が聞けているのか、家庭学習を見ている、理解できていないように感じるなどの学習に対する不安に思われている声もあった。

③ 分からないことがあった時、自分から解決しようとしていますか。（調べたり、たずねたり）

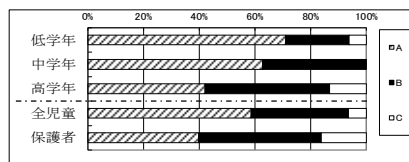
	A	B	C
低学年	70.5	24.5	5.0
中学年	56.6	43.4	0.0
高学年	64.4	32.2	3.3
全児童	63.9	33.4	2.8
保護者	61.3	33.5	5.2



昨年、一昨年とA回答の数値が上向きだった数値が、今年度は、下回る結果となった。特に低学年の数値が9ポイントも低くなり、前年度より学習内容が難しくなったこともあるが、自分で課題解決をしていく方法が分からないという問題点も見えてきている。保護者のA回答も7ポイントほど下回る結果となり、保護者自身もどのように子どもたちに話したら良いのか戸惑いがあるのではないだろうか。それを踏まえて、今後指導する必要がある。

④ 家で進んで学習していますか。

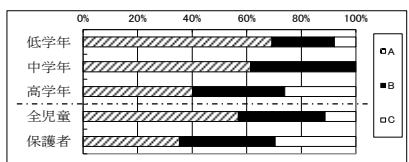
	A	B	C
低学年	71.0	22.7	6.3
中学年	62.8	37.2	0.0
高学年	42.1	44.7	13.2
全児童	58.6	34.9	6.5
保護者	39.8	44.0	16.2



例年、この項目の保護者のA回答の数値は5割を切っていたが、今年度はさらに4割を下回った。児童たちのA回答も低学年で6.4ポイントも下がり、学校の家庭学習よりも習い事等で時間を割かれることが多いのではないかと推測できる。自学自習で何をどのようにするかを理解をさせ、習慣づけていくことが重要である。

⑤ 進んで本を読んでいますか

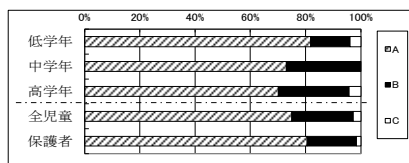
	A	B	C
低学年	69.3	22.9	7.8
中学年	61.4	38.6	0.0
高学年	40.1	33.7	26.1
全児童	56.9	31.7	11.3
保護者	35.4	35.1	29.6



例年、この項目で家庭での読書習慣が身に付いていないように感じていたが、今年度も保護者の感じる読書量、機会の数値は下回る結果となった。全児童の回答としては、さほど差は無いが、低学年と高学年の減少が目立っている。読書量と学力との相関関係から改善を図る方策として、読書の機会を増やすなどをの手立てを講じていく必要がある。

⑥ 学校は楽しいですか。

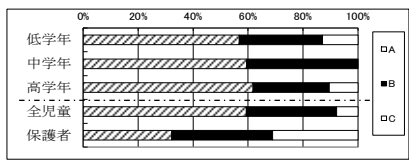
	A	B	C
低学年	81.8	14.3	3.9
中学年	73.1	26.9	0.0
高学年	70.1	25.6	4.3
全児童	75.0	22.3	2.7
保護者	80.6	17.8	1.6



今年度は、全児童で楽しいとA回答した数値が下回っている。特に低学年で約8ポイントも下がり、状況をしっかりと把握していかなければならない。学習面で難しくなり、楽しくないのか、友達関係や学校生活面で楽しくないのか、原因を追究し、改善を図っていく必要があると考える。

⑦ 自分で起きていますか。

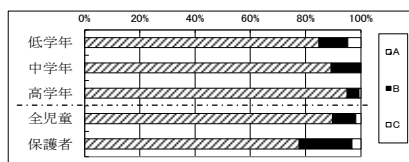
	A	B	C
低学年	56.8	30.3	12.9
中学年	59.5	40.5	0.0
高学年	61.9	27.7	10.4
全児童	59.4	32.8	7.8
保護者	32.2	36.7	31.1



生活の自立という観点から設問であるが例年と比べて大きく変化は見られない。ただ、昨年と同様に子どもたちの意識と保護者の捉え方にはズレがあるように思う。睡眠時間との関係もあり、規則正しい生活リズムを習慣付けることで、学習習慣も保たれると考え学校・家庭との連携を深め、意識改善を図っていくことが大切である。

⑧ 学習の準備は、自分でしていますか。

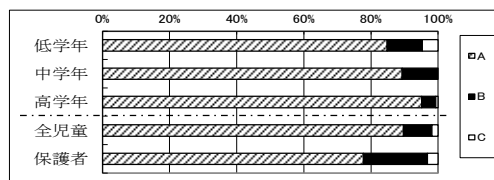
	A	B	C
低学年	84.9	10.4	4.7
中学年	89.3	10.7	0.0
高学年	95.1	4.3	0.6
全児童	89.8	8.5	1.8
保護者	77.8	19.1	3.2



この項目も上記と同じく生活の自立を問う項目である。昨年と大きな変化は見られないが、保護者の感覚としては、やや厳しくなっている。忘れ物を届けてくださる保護者からの数値の現れだろう。どの学年においても、日々忘れ物をしてくる児童があり、この指導にも学校と家庭の連携が大切であると思う。

⑧ 学習の準備は、自分でしていますか。

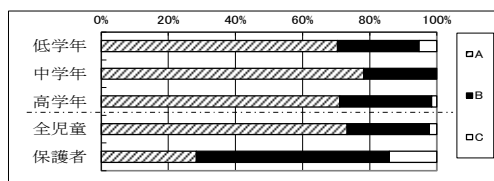
	A	B	C
低学年	84.9	10.4	4.7
中学年	89.3	10.7	0.0
高学年	95.1	4.3	0.6
全児童	89.8	8.5	1.8
保護者	77.8	19.1	3.2



この項目も上記と同じく生活の自立を問う項目である。昨年と大きな変化は見られないが、保護者の感覚としては、やや厳しくなっている。忘れ物を届けてくださる保護者からの数値の現れだろう。どの学年においても、日々忘れ物をしてくる児童があり、この指導にも学校と家庭の連携が大切であると思う。

⑨ 係や仕事は進んでしていますか。

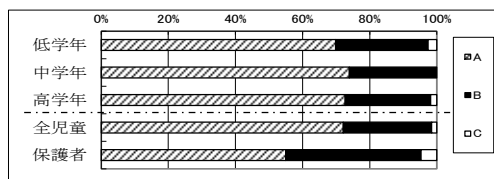
	A	B	C
低学年	70.4	24.3	5.2
中学年	78.2	21.8	0.0
高学年	71.1	27.4	1.5
全児童	73.3	24.5	2.3
保護者	28.3	57.5	14.2



昨年度と変わらない数値となったが、低学年のA回答の数値が大きく下回っているのが気になる。クラスごとに係活動に取り組んでいるが、家庭での役割分担やお手伝いとは子ども自身の意識が異なり、進んでという感じが保護者の目から見たら、「もう少し」となっているように思う。日々できることをコツコツと積み重ねる中で、達成感と充実感を味わうことが大切である。

⑩ きまりや約束を守っていますか。

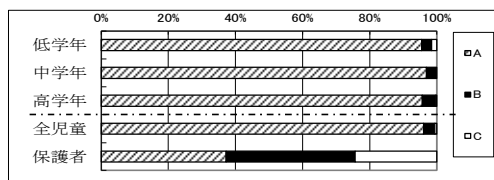
	A	B	C
低学年	69.9	27.5	2.6
中学年	73.9	26.1	0.0
高学年	72.7	25.5	1.8
全児童	72.2	26.3	1.5
保護者	55.0	40.3	4.7



昨年より全体的に2ポイントほど数値が下がっている。新型コロナウイルス感染症対策においては、マスク着用・手洗い・無言給食などの規範意識は定着しており、問題は無いと考える。ただ、子どもたちの中では廊下歩行などの学校生活全般において、規律が守られていないと感じているのであろう。今後もこの学校生活における規律に関しては、教職員全体で一貫した指導をしていく必要がある。

⑪ 遊んだりしゃべったりする友達はいますか。（保：家に帰ってから友達と遊んでいますか）

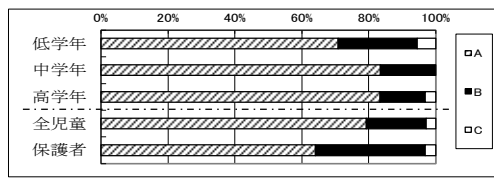
	A	B	C
低学年	95.6	2.9	1.6
中学年	96.9	3.1	0.0
高学年	95.7	4.0	0.3
全児童	96.1	3.3	0.6
保護者	37.3	38.4	24.4



この項目は、昨年とほぼ同じ傾向を示した結果となった。普段の学校での子どもたちの様子を見てみると、この数字が示している通りの児童間の関係性が見て取れる。ただ、保護者が見ている放課後となると日々の習い事などから、友だちと誘い合って遊ぶという場面が少ないと感じられていると思う。また、新型コロナウイルス感染症も引き続き警戒しながらコミュニケーションを図っていく取組を考えていく必要がある。

⑫ 困ったことがあった時、家の人に相談していますか。

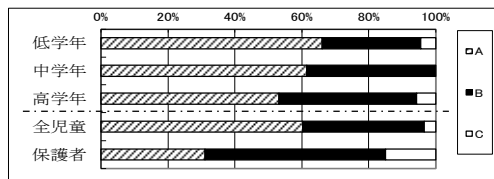
	A	B	C
低学年	70.9	23.6	5.5
中学年	83.5	16.5	0.0
高学年	83.4	13.5	3.1
全児童	79.3	17.9	2.9
保護者	64.1	32.8	3.1



今年のA回答の数値は、全児童としては昨年とほぼ同じであったが、低学年のA回答の数値が7ポイント減少している。また、児童と保護者の感覚のズレも例年同様の結果となった。児童からすれば相談していると回答していることが保護者からすればあまり相談されていないと受け取っておられることになり、相談の内容や頻度の捉え方の違いがあるものと感じる。保護者からすれば「どんな些細なことでも」という思いが、児童にすれば「これくらいは自分で」という思いとのずれではないだろうか。

⑬ 丁寧な言葉遣いをしていますか。

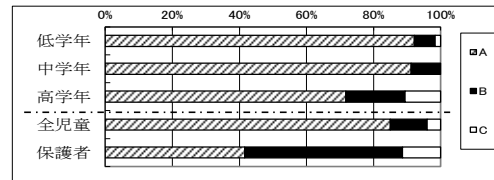
	A	B	C
低学年	66.1	29.5	4.5
中学年	61.5	38.5	0.0
高学年	53.2	41.0	5.8
全児童	60.3	36.3	3.4
保護者	31.1	53.9	15.0



言葉遣いの問題も昨年と同様の結果になったが、ここもやはり、低学年の意識が伸び悩んでいるように感じる。昨今、ICTによるコミュニケーションでちょっとした行き違いでトラブルに発展するケースが多くなっており、言葉を使つてのコミュニケーションの大切さを学んでほしい。そのための第一歩として友だち同士ででの丁寧な言葉遣いを定着させていくことが大切である。

⑭ 向上心を持って、粘り強く頑張れますか。

	A	B	C
低学年	92.1	6.3	1.6
中学年	91.2	8.8	0.0
高学年	71.7	17.6	10.6
全児童	85.0	10.9	4.1
保護者	41.7	47.0	11.4



この項目に関しては、例年と同じく高学年になるにつれて、数値が下がる傾向が見られる。低学年は、小学校生活に夢と期待を持って入学してきて間もないという状況があり、年数を経て、現実的に周りが見えてくることが考えられる。夢や目標が実現可能なものになってくると同時に難しいものになってくることを実感するのであろう。その目標や夢を実現させるために、保護者や教師、周りの大人がどのような手助けができるのかを考えた行動をしていかなければならない。児童たちとしっかりと向き合い、話し合っていきたい。